

「言葉は命」

一步を踏み出し、工夫と努力をしていこう!

2年生の国語の学習でも、課題作文を繰り返し書いてもらいます。この形式は、群馬県の公立高校の入試問題と同じものです。普段から練習を繰り返しておけば、与えられたテーマを、決められた字数で書くのはそれほど難しいことはありません。書くときに漢字や言葉の使い方を辞書で確かめる丁寧さを大切にしましょう。

今回は、2年生に進級したはつらつとした思いを書いてもらいました。

何事も、まず始めることが大切です。その後の工夫と努力が、そのことを本物に近づけてくれます。

「一步を踏み出す」
二年三組 N

私にとって一步を踏み出すというこ
とは、前と違う自分に出会うこと
です。二年生になって新たに一步を
踏み出しました。責任のある仕事
をやるようになってきました。一年
生の時の自分とは違って、新しい
自分と出会いたいです。

「一步を踏み出す」
二年一組 H

私は、数学と英語が苦手です。い
つもテスト前に勉強する時も、数
学と英語は少ししか勉強していま
せん。毎回、数学と英語はたくさん
時間を使ってやろうと思っていま
すが、なかなかできません。
二年生になって、もつと勉強が難
しくなってきたので、勉強から逃
げないで一步を踏み出そうと思
います。

「一步を踏み出す」
二年二組 B

人生は、第一歩が大事です。毎日
毎日、一つは目標を持って、その
目標をクリアさせたら、それを「
一步を踏み出す」と見てもいい
と思います。
私のクラスでは、今日の目標を
いつも書いています。私は、それ
をクリアさせて、第一歩を踏み
出している自分では思っています。

)))良書紹介(((いい本との出会いは人生を豊かにしてくれます！

私（新井）が最近読んだ本で、とても考えさせられた本の一節を紹介します。

『忘れかけていた大切なこと』 渡辺和子 PHP文庫 P103より



譲る心と詫びる心

ある家庭の朝の風景です。

中学生の息子が、朝食もそこそこに学校へと飛び出してゆくのですが、その際、床の上にあった灰皿を蹴飛ばしてしまい、あたり一面は灰かぐらになりました。息子は、「こんなところに置くから悪いんだ」と叫びながら、声高くドアを閉めて出てゆきます。

新聞を読んでいた父親が追いかけるように言います。「お前がギリギリまで寝ているからだ。足もとをよく見て歩け。」台所にいた母親も負けていません。「お父さん、あなたが床の上に置きっ放しにしておくからですよ」と非難の声を上げます。三人が三様、自分以外の人が悪いと言っているのです。

同じことがもう一つの家庭で起きたとします。息子は「ごめんなさい」と謝りながら学校へはしってゆきます。父親が、「いや、僕がだしたままにしておいて、すまなかった」と言い、母親も、「私が片付けておけば良かったのに、すみません」

と、これまた詫びます。三人が三様、自分の足りなかったことを詫びています。

非難しあった家庭は、貴重な朝の時間を不機嫌で過ごし、他方、詫び合った家庭は、同じことが起きたにもかかわらず、機嫌よく過ごしたことになります。

私たちが気をつけないと、「悪いのは私じゃない。あなたが悪いのだ」と、何かにつけて思いがちになっているのではないのでしょうか。このように非難し合う時、家庭でも社会でも、平和は壊されてしまうのです。

私は、この文章を読んだ時、自分がしているのは相手を非難することばかりではないだろうか、と不安になりました。

一つの出来事をめぐって、人はいろいろな反応をします。この例のように、非難が非難を呼び、とげとげしい気持ちといらだちをお互いがもってしまう場合。一方、思いやる気持ちから発する「ごめんなさい」や「すみません」の言葉。そしてその言葉によってお互いが譲り合うことで気持ち良く過ごせる場合。

言葉に込められるものは、その人の気持ち（心）です。言葉は心、言葉は命ですね。